

齊藤さん

- おとうさん 信嘉さま
- おかあさん 友里さま
- 赤ちゃん 葵(めい)ちゃん
平成30年5月2日生
3,068g 女の子

はじめまして!!

毎回の健診時やマタニティクラスに参加させていただいた際に丁寧に診ていただき、教えていただいたのが印象的でした。それでも、いざお産が始まると、不安が募るばかりで自分は本当に産めるのかと弱気になっていました。そんな中、落ち着いて的確な指示や励ましの言葉をスタッフの方々からいただき、本当に救われました。入院中の授乳指導も手厚く、新しい生活に向けて頑張ろうと思わせていただきました。ありがとうございました。



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べることができます。
- 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。
- 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

私の好きな風景

夕暮れ時、急に空が暗くなって大粒の雨が降り出したかと思うと、まもなく太陽が出はじめ、橋上に大きな虹が出て、わずかの時間の天空ショーを楽しむことが出来た。



撮影：出版メディア課 中谷 渉

●撮影場所
金沢市東山 梅の橋付近

お答えします！医科大Q&A

Q 当院の面会制限について教えてください。

A ご面会について、面会時間は次のとおりとなっています。

○面会時間／午前11時～午後1時まで 午後3時～午後8時まで

患者さんに十分な安静と療養をしていただくと共に、検査等に差し支えないように面会時間を定めております。なお、病状等により面会をお断りする場合がありますのでご了承願います。また、面会をご希望の際は、スタッフステーションへお申し出ください。
面会場所は、原則として各病棟のダイニング・ディナーコーナーとなっております。なお、隣接の病室の患者さんのご迷惑となりますので面会者との会話はお静かにお願いします。
感染予防のため、流行性の病気にかかっている方や小さなお子さまや多人数連れでのご面会をご遠慮ください。
※風邪、はしか、おたふくかぜ等でも、抵抗力の弱い患者さんには、重篤な状態をまねくこともありますのでご協力をお願いします。

(記：病院管理課)

【連絡先】 TEL(076)286-3511 FAX(076)286-2372
ホームページアドレス <http://www.kanazawa-med.ac.jp/>
Eメールアドレス kanrika@kanazawa-med.ac.jp

あなたに贈る健康へのメッセージ ―― 知ってください病院のこと、身体のこと

医科大どおり

CONTENTS

- 内視鏡センターについて
- 患者相談支援窓口のご案内
- 病棟紹介（3号棟6階リハビリ病棟）
- 病院ギャラリー利用について
- お知らせ
- 研修医・指導医紹介
- はじめまして
- 私の好きな風景
- 医科大Q&A



金沢医科大学病院外観

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

内視鏡センターについて

当院内視鏡センターには検査室7室とX線透視室が備わり、消化器（上部・下部消化管、胆膵）および呼吸器（気管支）に関する検査・治療を行っています。

センターの医師は消化器内視鏡科、消化器内科、肝胆膵内科、一般・消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、小児外科の各診療科で構成され、看護師12名、看護補助員3名とともに、安全安心な内視鏡検査を心がけております。また、健康管理センターと連携し、内視鏡検診を行い、早期癌の発見に力を注いでおります。

消化器領域で対象となる疾患は、胃・十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、食道静脈瘤、大腸ポリープ、炎症性腸疾患、胆石、膵炎、食道癌、胃癌、大腸癌などがあります。早期消化管癌に対するESD（粘膜下層剥離術）、大腸ポリープに対するEMR（粘膜切除術）、胆管結石に対する結石除去術や胆道ドレナージ術、食道静脈瘤に対する硬化療法や結紮術などの内視鏡治療も、多く行っております。

呼吸器領域で対象となる疾患は、間質性肺炎、呼吸器感染症、肺癌があります。胸部レントゲンやCTで肺に異常陰影がみられる場合は、気管支鏡検査を行います。

検査には鎮静剤を使用し、不安感をできるだけ取り除いた状態で検査を受けていただくことができます。また、広いリカバリ室があり、検査後十分に休んでから帰宅することができます。スタッフ一同、安全で苦痛の少ない内視鏡検査を心がけておりますので、安心して受診してください。

心窩部痛、胃もたれ、胸やけ、胃酸が上がってくる、食べ物がつかえる、便に血が混じる、便が黒い、貧血、痰に血液が混じる、咳が続くなどの症状がありましたら、担当医や各診療科にご相談ください。



内視鏡センター

（記：内視鏡センター センター長 伊藤 透）

患者相談支援窓口のご案内

患者さんやご家族の方々からの生活上及び入院上の不安など、さまざまな相談にお答えする窓口を設置しています。専門の看護師、社会福祉士（ソーシャルワーカー）、事務員がおりますので、お気軽にお越しください。

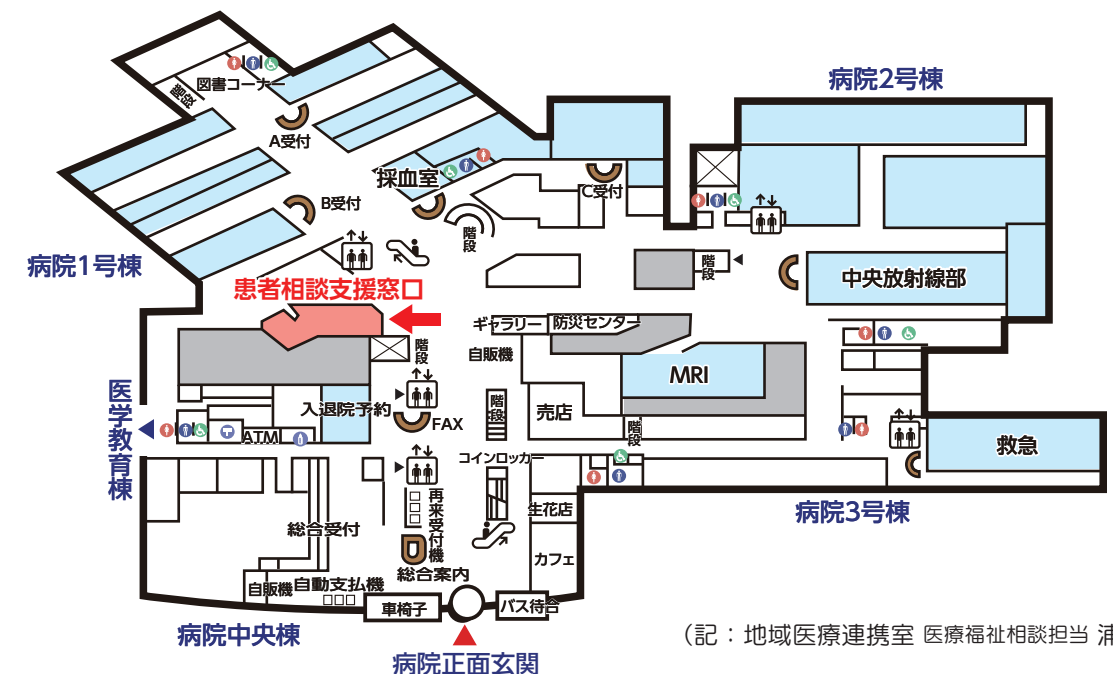
支援体制としての取組み

- 1 相談窓口と各部門が連携して支援しています。
 - 医療福祉に関する相談（医療・福祉・介護・療養・就労両立支援 他）
 - がんに関する相談（がん相談支援センター）
 - 臨床試験・治験に関する相談（患者申出制度 他）
 - 診療費等に関する相談（支払い・交通事故・労働災害 他）
 - 医療安全に関する相談（診療情報開示・個人情報保護 他）
 - おくすりに関する相談
 - 栄養・食事に関する相談
- 2 各部門に患者支援担当者を配置しています。
- 3 カンファレンスを週1回開催し、取り組みの評価をしています。
- 4 相談への対応・報告体制をマニュアル化し、職員に遵守させています。
- 5 支援内容を記録しています。
- 6 定期的に支援体制の見直しを行っています。

【相談支援担当者】 古府美知子（事務員）、才田悦子（看護師）、浜江紀美代（看護師）、矢田厚子（看護師）、奥村成葉（社会福祉士）、前田亜沙美（社会福祉士）

【相談時間】 月～金曜日 8:45～17:00 土曜日 8:45～12:45

【電話】 076-286-3511（代表）（内線6183）



（記：地域医療連携室 医療福祉相談担当 浦川 亜矢）

病棟紹介 (3号棟6階リハビリ病棟)

病院 3 号棟 6 階病棟は、急性期治療を脱した患者さんに対して、集中してリハビリテーション医療を行う回復期リハビリ病棟です。スタッフは師長 1 名、看護師 17 名、看護補助員 10 名、リハビリ医師 3 名、リハビリスタッフ 14 名です。病棟内には『リハビリテーション訓練室』があり、365 日、“朝起きてから寝るまでがリハビリ”をモットーに患者さんの機能回復に努めています。



リハビリ風景

今後の生活に不安を抱いている患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながら、患者さん一人ひとりのゴール設定とリハビリテーション計画をチームカンファレンスで話し合い、患者さんの実生活に沿ったリハビリを行っています。また、必要な患者さんには介護認定を取得していただき、自宅の状況を確認した上で家屋改修のご提案や、患者さんに合わせたサービスが受けられるように、多職種で連携しながら地域につなぐ支援を行っています。

毎日、看護補助員さんが主体となって日々のレクリエーションを行っており、患者さんが一生懸命に取り組む姿や笑顔が見られる、活気のあるイキイキとした病棟であると自負しています。

患者さんとご家族が安心して 1 日でも早く家庭復帰、社会復帰ができるように、スタッフ一同日々笑顔で取り組んでいます。



リハビリ病棟スタッフ

(記：3 号棟 6 階病棟 師長 西山芳江)

病院ギャラリー利用について

当院では、患者さんに癒し空間を提供し、くつろいでもらうことを目的に病院ギャラリーを設けました。あなたの作品を病院で展示しませんか。

展示スペースをお貸しいたしますので、作製された絵画、写真、書などを展示いただけます。

1 名称

「アートギャラリー おんぼらーと」

2 設置場所

病院 1 号棟 1 階「病院ギャラリー」

3 利用対象

一般個人、各種団体（1 団体につき、1 年に 2 回まで）。
患者さんやご家族の他、作品の創作活動を行っている方に絵画等の展示スペースをお貸します。

4 展示作品

絵画、写真、書等で額装されたもの
●陶器、工芸、生け花、彫刻、オブジェ等は破損等も考えられますので要相談とします。
●展示作品は 1 作品より受付します。
(展示数は要相談)

5 利用制限

利用目的や展示内容が下記事項に該当する場合は利用できません。

- 1) 作品が特定の宗教又は政治団体の活動となるもの。
- 2) 営利目的となるもの。
- 3) 公序良俗に反したもの。
- 4) 見る人に不快感を与えるもの。
- 5) 病院として相応しくないもの。

6 展示サイズ

80 号程度 (150cm×100cm) までのものをお願いします。

7 展示期間

原則、2 ヶ月とさせていただきます。
ギャラリー 7:30～19:00 まで開放とします。



8 利用料金

無料です。

9 設置及び撤収

展示作品の設置及び撤収に関しては利用者主体でお願いします。
また、設置及び撤収に要する費用は利用者負担でお願いします。

10 管理責任

展示している作品の破損、盗難等が生じた場合、当院は一切の責任を負いませんのでご了承ください。

11 申込方法

利用申込書に必要事項を記入し、展示作品の写真とともに下記申込先まで郵送ください。
※利用申込書は病院ホームページからダウンロード可能です。

12 申込先

〒920-0293

石川県河北郡内灘町大学 1 丁目 1 番地

金沢医科大学病院 病院管理課

TEL.076-286-3511

FAX.076-286-2372

(記：病院管理課)

お知らせ

平成30年4月より入院時の食費の負担額が変わりました

入院時の1食あたりの食費の負担額が以下のとおり変更されます。

なお、住民税非課税世帯の患者さんや、指定難病、小児慢性特定疾病の患者さん等の負担額は据え置かれます。

入院時食事療養費の標準負担額(1食につき)

区分		過去12か月の 入院日数	H30年3/31まで 食費(1食)	H30年4/1から 食費(1食)
一般の方			360円	460円
一般の方(指定難病又は小児慢性特定疾病児童等)			260円	変更ありません
住民税非課税 世帯の方 ※注1	70歳未満で【オ】	90日以内	210円	
	70歳以上で【区分Ⅱ】	91日以上 ※注2	160円	
	70歳以上で【区分Ⅰ】		100円	

※注1 住民税非課税世帯の人は、保険者が発行する **標準負担減額認定証** を提示することで食事の減額を受けることができます。

※注2 70歳未満で【オ】、70歳以上で【区分Ⅱ】の区分の人が過去12か月以内に91日以上入院となる場合は、市町へ申請していただくことで210円から160円にさらに減額となります。
【 】は限度額適用認定証の適用区分です。

食事メニュー

食事は米食(ご飯)となりますが、ご希望によりパン食に変更したり、夕食のおかず(主菜)を特別料理(高価なおかず)に変更することができます。但し、その場合は標準負担額に加え追加料金をご負担いただくことになりますのでご了承ください。

食事メニューを変更した場合

◎パン食(標準負担額+200円追加)

主治医の指定したエネルギー量によりパンの個数に違いがありますが、料金は一律となります。

◎特別料理(おかず)(標準負担額+500円追加)

特別料理の申込み後に患者さんの都合で取り消された場合、料金は戻りませんのでご了承ください。

パン

+200円



特別料理

+500円



(記：医事課 課長 北村 純子)

研修医・指導医紹介

研修医紹介



2年次初期臨床研修医

秋田 恵理(あきた さとり)

愛知県出身

【医師を志したきっかけ】

私が医師を目指したきっかけは、4歳の頃祖母にお医者さんごっこセットのおもちゃを買ってもらったことでした。当時入院中だった祖母に玩具の聴診器をあて、診察ごっこをして「元気になってきた、ありがとう」と言われるのが嬉しくて、いつしか医師として働くことが将来の夢となり、目標となりました。研修医となった今、闘病中の患者さんご家族に寄り添い、安心と希望を提供できる医師になれるよう努力していきたいと思っています。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

担当させて頂いた患者さんは皆さん印象に残っていますが、本音を語ってくださる方は強く印象に残ります。本当は検査や治療が怖くて仕方ない、本当はどうしても自宅に帰りたい…患者さんの想いはそれぞれ、時には涙ながらに訴えられる方もいらっしゃいました。その方とは一緒に考え、何が一番ひっかかっているのかを何度も話し合い、無事治療に臨んでいただくことが出来ました。患者さんの気持ちに寄り添い、安心して治療に臨んでいただきたいので、些細なことでも遠慮なくおっしゃってくださいね。

指導医紹介



血液・リウマチ膠原病科

水田 秀一(みずた しゅういち)

愛知県出身

【最近の研修医の指導について感じていること】

研修カリキュラムが充実してより幅広い分野において学ぶ機会が増えていると思います。それぞれの部署において研修事項、目標も定められており系統的な研修ができるようになりました。しかしながら実地医療で必要とされるのは総合的な臨床力であり、高年齢が進み一人の患者さんが複数の疾患を併発することが多い現状においては、広く深い知識と経験を有した医師が切望されています。専門領域に限らず自身が学び経験した事のすべてを将来に活かせるよう精進していただきたいと思います。

【自分の研修医時代との違い】

私が卒業した昭和の時代は大学を卒業後すぐに大学病院で研修をすることが通常でありましたが、名古屋大学ではほとんどの研修医が関連病院で全科ローテートしてから入局していました。ローテートする科はそれぞれの病院の特長を活かす形で比較的自由に選択できました。研修医時代世間はバブル期で商社マン役の俳優が優雅な生活を満喫しているトレンドードラマを見ながら、自分にもきっと良いことがあるだろうと漠然とした夢を描いておりました。今の時代の研修医の先生にはしっかりと夢と希望を持って将来を見据えて頂ければと思います。